令和３年度　第１回荒尾市観光振興計画策定等委員会　議事録要旨

日　時：令和3年4月 23 日（金）　午後2時 30 分～午後4時 00 分
場　所：荒尾市役所11号会議室
出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員 18 名（別紙出席者名簿のとおり）
事務局：産業振興課課長　岩下和隆、同課長補佐兼観光推進室室長　江口雅臣、
同副主任　西卓也、同副主任　平山裕也
ジャパンインターナショナル総合研究所　松崎良祐、板野友里菜
オブザーバー：荒尾市観光協会事務局長　徳村美佳

1. 開会
事務局が、開会のあいさつと資料の確認を行った。

2. 委員長挨拶
・先日、「道の駅あらお（仮称）基本計画」を市長に答申した。コロナ禍ではあるが、1つずつ前に進めていかなくてはいけないと考えている。
・今後整備する道の駅は、市内観光の離発着所になると思う。観光客に対して発信できるよう情報が集まる拠点としてもらいたい。
・これまではグリーンランドを中心にした観光であったが、これからは新しい観光のあり方について考えなければならない。交流人口を増やしながら定住促進を図り、未来の子どもたちが誇れるふるさとをつくりたい。

3. 新任委員紹介
事務局が、資料 1 に基づき、新任委員を紹介し、委嘱状の交付については机上での配付とすることを報告した。

4. 報告
事務局が、資料 2 に基づき、前回委員会の協議結果を報告した。

5. 議事
(1)本市における観光振興の意義について
事務局が、資料 3 に基づき、本市における観光振興の意義について説明した。意見等はなかった。

(2)第 3 期荒尾市観光振興計画（仮称）のコンセプト及び誘客戦略・ターゲットについて
事務局が、資料 4-1・4-2 に基づき、第 3 期荒尾市観光振興計画（仮称）で定めるコンセプト（案）及び誘客戦略（案）・ターゲット（案）について説明した。意見等は以下のとおり。
【意見等】
○　誘客戦略・ターゲットについて、盛り込み過ぎている印象で、さらに絞り込まないと何に力を入れて

いくのかが分からないと思う。先日制作された動画も同様で、内容が際立っていないように見える。観光は際立たせていくべきだと思うので、検討してほしい。

→ 次回の会議で「施策体系」や「具体的な取組み」を示す予定だが、その中で重点的に取り組む施策を位置づけたいと考えている。（事務局）

→ 特色をどこに出していくかが難しいところであるが、荒尾らしさに特化した売り方ができれば話題性があって良いと思う。

○ マジャク釣り体験やテーラー乗車体験を推されているが、どちらも限られた期間しか催行できず、規模としても小さすぎるのではないか。逆に、荒尾干潟水鳥・湿地センターの所に海水浴場ができないかと考えている。かつては荒尾市でも海水浴を楽しむことができたが、水質が悪くなりできなくなったと理解しており、今は水質も良くなったと思うので、海水浴場とする可能性はないか。

→ 海水浴ができなくなったのは水質の影響だと思うので、水質がクリアできれば夏場は海水浴もできると思う。漁協としては問題ないので、行政で水質を確認してもらい、海水浴を推進するのであれば、できる限り協力したい。
一方、マジャク釣り体験は現在コロナ禍で自粛している。小規模であれば実施してよいのではという意見もあったが、飛沫が飛ぶリスクを懸念する意見もあり、実施していない。実施できる方法があれば教えていただきたい。マジャク釣り体験をしたいという問合せも多い。

→ マジャク釣り大会ではなく、マジャク釣りの日を決めて参加者同士が離れて行う方法であれば実施できるのではないか。出発式等を行わないのであれば実施できると思う。実行委員会でも検討してもらいたい。海水浴や地引網等、昔は海の行事があったので、水質の点は事務局で精査してほしい。

→ マジャク釣り大会は 1000 人規模の参加があるため開催は難しいという話を聞いている。一方、マジャク釣り体験であれば、小規模での実施も可能であるため、方法次第では実施できるのではないかと考えている。（事務局）

→ 市長から県をまたぐ外出自粛の方針が示されている中、マジャク釣りに関する問合せは大牟田市を含め福岡県の方からもあり、県内の方は認めて県外の方は認めないという対応が難しいため、一律に実施を自粛している状況である。

→ 通常、マジャク釣り体験は大会以外にも個別でできるのか。

→ 通常であれば個別で体験することができるが、現在はコロナ禍で自粛しているところである。

○ コロナ禍なので、ゴールデンウイークの期間は、なるべく他所から人が入らないようにする我慢の時期なのではないか。収束後に皆で観光客をもてなせるのが願いであり、それにより、仕事や雇用も確保できると思う。

→ コロナ禍での好事例として、グリーンランドでは、マスクに貼れるシールを配布し、デコレーションを楽しむことができるようにするなど、逆手にとった取組みをされている。今回の計画策定を通じ、このような好事例やノウハウを地域の中で共有できる関係性を築いていけたらと思う。（事務局）

○ コロナ禍での安全確保をどうするかについては重要な観点だと思う。例えば、新潟県佐渡島では独自の安全認証プログラムをつくり、条件を満たす施設を認証することで安全な施設がどこであるか

を分かるようにしており、観光客は安全に観光することができている。また、分散をいかに図るかも大事であり、旅行会社のバスツアーでも利用者がバスのどの席に座ったかを把握している。大学の授業も席を記録しなければならない。マジャク釣りにおいても、事前に予約ができあらかじめエリアを決めておけば分散ができるのではないか。いろいろな方法がある気がしている。
また、コンセプトの案について、「興奮」「癒し」「感動」は今の旅行者・消費者が求めるものであり、今後は「満足」を上回る価値を提供していくことが大事である。それにより、ファンやリピーターの増加にも繋がる。これらをストレートに伝える表現がしてあり、言葉のインパクトはあると感じた。各関係事業所等におかれても、商品やサービスを提供する際に、この言葉をイメージしながら取り組むと磨き上げができるのではないかと思う。さらに、「ARAone ツーリズム」という言葉も、馴染みやすく、面白い、かわいらしいと感じた。地域が一体的に取り組む意識の醸成につながるのではないか。
一方、戦略とターゲットは変わっていく部分があると思う。各事業に取り組みながら、変更していくものは変更していくという「トライ＆エラー」の発想でよいと考えるので、計画書の内容に全て縛られるものではないという余地を残しておいてよいと考える。
さらに、観光の意義については、観光事業に取り組む中で、当該意義に立ち返ることが大切だと考えている。観光という言葉は、中国の歴史書に由来しており、「国の光を観る」と書く。「光」とは地域資源のことであり、文化や自然という公共財でもある。これを磨き上げていかないとお客さんには響かず、磨き上げに当たっては、移動や宿泊等、様々な関係者で取り組んでいかなければならないのが観光事業の大きな特徴であると考える。これが、観光はまちづくりであると言われる所以であり、地域が一体となって取り組むことが暮らしやすさにつながる根本だと考えるため、この意義を念頭において取り組まれたいということを強調したい。

6. 意見交換

誘客戦略①「グリーンランドなどからの周遊促進」と誘客戦略②「荒尾市へのリピーターの拡大」に向け、どのような取組みが考えられるか、「観光客」の立場と「サービス提供者」の立場に分かれて意見交換を行った。意見交換に当たっては、2 つのグループ（A グループ・B グループ）に分かれ、立場を入れ替えながら行った。各グループにおける意見等は以下のとおり。

【A グループ】

戦略①「グリーンランドなどからの周遊促進」について

- ○ 周遊促進のためには、「有名なフルーツサンドがある」、「パフェがある」といった目玉商品があるとよい。また、荒尾市をよく知らない人でも、一目でどこに行ったらよいかが分かるモデルコースを示せたらよい。
  また、ネット検索をして飲食店などを調べた際に、綺麗な写真があるとそこに行きたいと思う。ネット掲載のノウハウを指導する機会があってもよい。
- ○ ドライブをする人、バスなどの公共交通機関を利用する人、それぞれがどの宣伝媒体を使うかを見極めることが大事である。若い人はスマホを使って調べる割合が多いと思うので、SNS の活用やタグ付けが重要である。
- ○ SNS による情報発信は事業者が個別に行っているが、差がついているため、底上げが重要だと思う。

グリーンランドからの周遊を考えると、1 日で市内を周遊するのは難しいため、泊まってもらうことを考える必要がある。コロナ禍で若い人の来訪が増えているが、若い人は宿泊をしない傾向にある。どう泊まってもらうかが滞在時間の延長につながる。

○ 観光に行った際には、有名なところしか寄らない。観光客は、有名な場所に寄ろうと思うし、特産品を買って帰ろうと思うので、荒尾市でもそういうものを作らないといけない。

○ バス停に降りたら、最寄りにどういう見どころがあるか、美味しいものがあるかといった情報発信はできる。グリーンランド来訪者は、荒尾駅からのバス利用や、西鉄電車の利用が想定されるが、帰り道などにグリーンランド以外の場所に立ち寄ってもらえるような情報発信はできる。

○ 鉄道やタクシーでも、紙媒体だけでなく、バーコードリーダーで荒尾市の観光情報が得られるように整備できるとよい。

○ 子どもを連れてグリーンランドで一日遊ぶと、他の場所には行かないと思う。次に行く場所としては飲食店が考えられるので、飲食店の情報が得られるとよい。各飲食店の名物が写真で分かるとよいし、お酒を飲みたいならホテルの宿泊にも繋がる。

荒尾市の情報として写真が少なく、写真があっても古いことがあるので、発信する量を増やしていくとよいと思う。1 日 1 投稿できると、見る人が増えると思う。

10～20 代の若者グループについては、高校生の子どもたちは自転車で移動する。若者たちはグリーンランドの次にどこかに訪れる可能性はあるので、マップや乗継ぎの時刻表などがあるとよいのではないか。

○ バスの時刻表の検索ページはご存知か。現在地の近くのバス停の場所や、いつバスが来るかといった情報を得ることができるため、ぜひ利用していただきたい。

戦略②「荒尾市へのリピーターの拡大」について

○ グリーンランドはリピーターがほとんどだが、万田坑などほかの施設は 1 回見たら 2 回見ようという施設が少ないため、イベント開催などを交えてリピーター促進を考えていけたらよいと思う。荒尾市の良いところはたくさんあるので、それがリピーターに繋がっていけたらよい。

○ 情報発信を絶え間なくやっていくことが大切だと思う。毎日情報発信をすることで、活発なイメージが伝わり、行ってみようと思う人が出てくるだろう。

○ 1 回目に来た時に、次には別の場所に行ってみようと興味を持ってもらえるような情報発信が重要だと思う。コンテンツの数としては、荒尾市内に十分にあると考える。

有明地域や熊本県・長崎県との連携など、荒尾市だけで完結することなくPRに取り組んでいく視点も必要ではないか。

○ 見学ものは 1 回訪問すると満足してリピーターに繋がりにくい。建物だけでなく、花や植物といった毎年楽しめるものを交えると、その時期には人が来るようになると思う。

一方、荒尾市内には大型の貸切バスが入れない場所がある。1 回ツアーで来てよかったら、次はツアーではなく個人旅行として訪れるというリピーターも期待できる。

○ 年中あるものと、季節ものと、絡めながら展開していくのがよいと思う。梨やスイカ、オリーブ、花など、四季折々のものを組み合わせて情報発信するのが大切である。

○ ゴルフ場が安く、コースがとりやすいのも荒尾市の売りになる。

○　韓国から多くの人がゴルフに来ていた。
サービス提供者側が写真で情報発信することに加えて、お客さん自身が写真に撮りたいものがあると来てもらえる。

○　荒尾干潟は写真に撮りたい景色だし、時間帯や撮る位置により毎回違う表情がある。カフェが整備されるとカフェで買ったものと一緒に写真が撮れて今どきのインスタ映えになる。
花は年齢を問わず好きだと思う。若い人にとっても花を背景にテイクアウトを買って外に出て楽しむのは魅力的である。
イベントが定期的にあると人が集まるため、どの時期にどんなものが見られるのかを情報発信してもらえたらありがたい。

○　荒尾干潟はリピーターに来てもらいやすいと思う。道の駅の整備を進めているが、夕陽を見ながらの散歩や、音楽やコーヒー、食事、インスタ映えなどを一緒に楽しむなどの仕掛けがリピーターの獲得につながっていくのではないか。

○　市内には 1 つ 1 つ良いものがあるが、情報発信が十分にできておらず、連携ができていないという課題があり、行政として関われる部分を考えていかなければならないと思う。リピーターの拡大に向けては、道の駅の整備を計画しているが、梨を利用してどういう展開をするか、梨の期間以外の魅力をどうつくっていくかを考えているところである。情報発信については、民間事業者とも連携して体制をつくっていけたらと思う。

【B グループ】
戦略①「グリーンランドなどからの周遊促進」について

○　グリーンランドには教育旅行での来訪も多いが、遊びの要素だけでなく教育要素のあるものを入れたいという一部学校のニーズもあり、マジャク釣りとグリーンランドや、万田坑とグリーンランドなど、連携したプログラム造成や誘致活動を行ったことがある。

○　週末に何をするか観光客として考えた時に、阿蘇・天草ではなくそれ以外の場所に行くとなると、なかなか情報が入らない。グリーンランドやマジャク釣りの情報は以前入っていたが、子育てもひと段落した今、情報を目にする機会も減った。食は 1 ヶ所では飽きてしまうので、長く続けるためには次から次へと新しいものが見えてくるとよいと思う。
グリーンランドに泊まったお客さんに対し、次に来たくなる情報をどう与えるかが 1 つのポイントだと思う。

○　マジャク釣りは素人には難しいが、釣れなくても数匹プレゼントするなどのサービスを提供してあげると良いと思う。ちょっとした心遣いがリピーターにつながる。

○　情報発信については、飲食店のパンフレットや二次元コード、HP を活用するということを考える必要がある。

○　グリーンランドで遊んで、ホテルに泊まってマジャク釣りをするというプロモーションは協力できると思うが、一方で園内には飲食店もあるので、園外の飲食店等の紹介はどうしたらよいか悩ましい。

○　グリーンランドが閉園した後の時間に滞在を促す仕掛けができないかと考えている。観光客目線でどこに寄りたいと思うか。（事務局）

○　荒尾市内を巡るスタンプラリーに参加してみたが、午前中に荒尾干潟→宮崎兄弟の生家→昼食→万

田坑を回ると丸 1 日になった。観光地側の発想だけだと押し付けになってしまうので、お客さん目線にならなければいけない。
また、デジタルでの情報発信は、エリアやターゲット等を設定して SNS での広告発信ができるので、攻めの情報発信も必要だと思う。熊本県観光連盟では、SNS の人材育成のための講座を行う予定である。

○ インターネット上を含め情報があり過ぎており、より研ぎ澄まされたものしか見てもらえない世の中になったと思う。YouTube も今後はもう難しいのではないか。
○ 人吉市がアニメ「夏目友人帳」とコラボした動画を制作していた。アニメファンなど特定の層に向けた情報発信のやり方も必要だろう。（事務局）
○ 発信する際には、＃（ハッシュタグ）を自分で精査する必要がある。荒尾市であれば、グリーンランドの花火大会、のばらさん、こくんぞさんと、多くの人が集まるイベントが定期的に開催されるため、まずはそれらを＃に付けるところからスタートしてはどうか。グリーンランドの花火大会は多くの人が写真を撮っているし、一番のコンテンツであるということは間違いないだろう。
○ 情報発信は課題だと思う。ポスターでもいいので、春夏秋冬の情報が分かるポスターをグリーンランドなどに貼っておくと、実際に訪れた季節でない情報も認知され、リピートにつながるのではないか。
中川オリーブ農園 〇megane では、写真映えする情報発信がされている。季節ごとの写真や、梨や牡蠣、マジャクとコラボしたメニュー開発などは楽しそうである。
○ 情報発信については、県北の 2 市 4 町でも連携していきたいと考えている。関係人口の次のステップとして移住促進を狙うとすると、スポットだけでなく、「人」を紹介するという視点も必要だと思う。
○ 情報発信をはじめ、今後事業を展開していく上で、この会議の場が互いの状況の共有やつながりづくりの機会となればよいと思う。（事務局）

戦略②「荒尾市へのリピーターの拡大」について

○ リピーターの拡大には「食」が必須であると考える。
○ 荒尾市はグリーンランドで集客ができているため、必ずしも食でなくてもいいのではないか。というのも、観光客を狙ったメニューをつくっても、地元の人に選ばれなければ飲食業は成り立たない。グリーンランドを中心に何かしら考えていきたい。
○ 食について、これまでもご当地グルメの開発などに取り組んできたが、なかなか成功できていないところもある。一方で、メロンパンやお好み焼きは知名度が高いため、新しく作るという発想は一旦捨ててでも、何か展開できることはないだろうかと思う。（事務局）
○ 食に関しては、長年の文化が必要なところがあるので、今から何か作ろうとするのは少々無理があるし、事業として継続できなければ実現できない。単発的にヒット商品ができればよいが、食での誘致は難しいと思う。
○ インスタ映えするものを作ることはできるが、コストが非常に高く、地元の人には向かないため、事業者側には継続性が難しい。
○ 今年度から牡蠣の養殖事業に取り組んでおり、順調にいけば 2 年後には出荷できるようになる。牡

蠣は干潟で育てるとおいしいと言われており、牡蠣を使って海岸での BBQなども実施できると思う。海産物には旬があるので、5 月はマジャク、冬は牡蠣・海苔など、やり方はいろいろとあると思う。

○ マジャクは、釣りの体験はもとより、釣った後に食べたいというニーズも高いようだが、食を絡めた展開について考えがあれば教えてほしい。（事務局）
○ やり方次第ではできると思う。漁協の中でもできないことはない。勉強することは多いが面白いと思う。
○ 「牡蠣小屋」はあるが、「マジャク小屋」はないので、実現できれば荒尾市の目玉になると思う。個人的にはマジャク釣りは好きで、すぐに食べられるのは魅力だと思う。
○ グリーンランドの観光客を呼び込めれば、かなり賑わうのではないかと思う。
○ グリーンランドに行く人はグリーンランドを目的にしており、マジャク釣りとセットにすると宿泊しなくてはならなくなるため、分けて考える方がよいと思う。マジャク釣りと食を絡める方法を考えるのがよいのではないか。
○ マジャク釣りは若い人や子ども連れが多い。現地で食べられるのは魅力があると思う。
○ 福岡にいる子どもが行きたいと言っていたが、汚れるイメージがあり実現に至っていない。食べるとなると天ぷらしかレパートリーがないため、食べ方も含め広めてほしい。
○ 揚げるだけでなく茹でる食べ方がある。「丸ごとせんべい」は難しかった。
汚れ対策としては、脱衣所まではないが、足洗い場は整備しており、以前に比べると改善している。
○ 日帰りとなると食事・物販はグリーンランドで完結するだろうが、有名なところがあれば行ってみたいと思うのではないか。
○ 城山観光ホテルには年に2～3回行っている。朝の食事や朝風呂、景色等を楽しみにしている。
○ 荒尾市にはいちご狩りができるところがないのが残念である。
○ シャインマスカットは最近増えており、美味しい。ただ、価格が高い。
○ 梨狩りの案内をホテルの案内で行ったことはあった。テーラー乗車体験やマジャク釣り体験などはオプショナルツアーとして考えられる。
○ それぞれで実施できる場所が離れているため、セットにするのは難しいと思う。
○ 課題はあるだろうが、インパクトとしてはものすごくあると思う。

7. その他

事務局が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。また、次回の会議を6月下旬に開催する予定であることを連絡した。

8. 閉会

事務局が、閉会を宣言した。